

都城市内遺跡 4

2011年3月
宮崎県都城市教育委員会

序 文

本書は、都城市教育委員会が各種開発に対し埋蔵文化財の保護を図るため、平成22年度に国県補助を受け実施した市内遺跡の試掘・確認調査の報告書です。この報告書が各種開発事業の際の協議や調整に利用されるとともに、学術資料としても広く活用していただければ幸いです。

試掘・確認調査に従事していただいた市民の皆様をはじめ、地権者ならびに開発関係者のご協力を賜りましたことに対し、深く感謝申し上げます。

平成23年3月

都城市教育委員会
教育長 酒匂 酿以

例 言

1. 本書は、各種開発事業に伴い、都城市教育委員会が国県補助を受けて平成22年度に実施した市内遺跡発掘調査の報告書で、市内17地点（事業）において実施した試掘・確認調査の成果を掲載した。
2. 調査主体 都城市教育委員会
 教育長 酒匂 酿以
 教育部長 石川清
 文化財課長 坂元昭夫
 副課長 山下進一郎
 主幹 松下述之
 副主幹 桑畠光博
 調査担当 桑畠光博 下田代清海 久松亮 近沢恒典 山下大輔 加賀淳一
 庶務 平川美奈子
3. 本書に掲載した調査区域図・土層断面図の製図、現場の写真撮影及び調査概要の執筆は、各調査担当者が行い、久松が編集した。
4. 遺物の実測は調査員の指導のもとに整理作業員が行い、久松が製図した。
5. 本書に記載した図面の製図は株式会社CUBIC「トレースくん Cubic Ver3.0」を用い、ADOBE ILLUSTRATOR CS3にて編集を行った。
6. 出土遺物と各種記録類は都城市教育委員会で保管している。

本文目次

はじめに	1
公共事業	
久玉遺跡	3
平松遺跡	6
市道西之前通線	8
市道四方面・木手ヶ山線	10
七日市前遺跡・真米田遺跡	12
民間開発	
芝原遺跡	22
油田遺跡	24
広瀬遺跡	26
取添第2遺跡	27
胡摩段遺跡	28
池原遺跡	29
篠原遺跡	30
高橋遺跡	32
城ヶ尾遺跡	33
南鷹尾町	34
上冷水遺跡	35
池ノ元遺跡	36

はじめに

都城市は宮崎県の南西部、東から南は鰐塚山・柳岳を主峰とする鰐塚山地に、北西は霧島火山の高千穂峰（標高1574m）を主峰とする霧島連山に囲まれた都城盆地に位置する。標高は市街地で150mほど、最も低いのは高城町四家の本八重地区で56mとなる。面積はおよそ653k m²である。

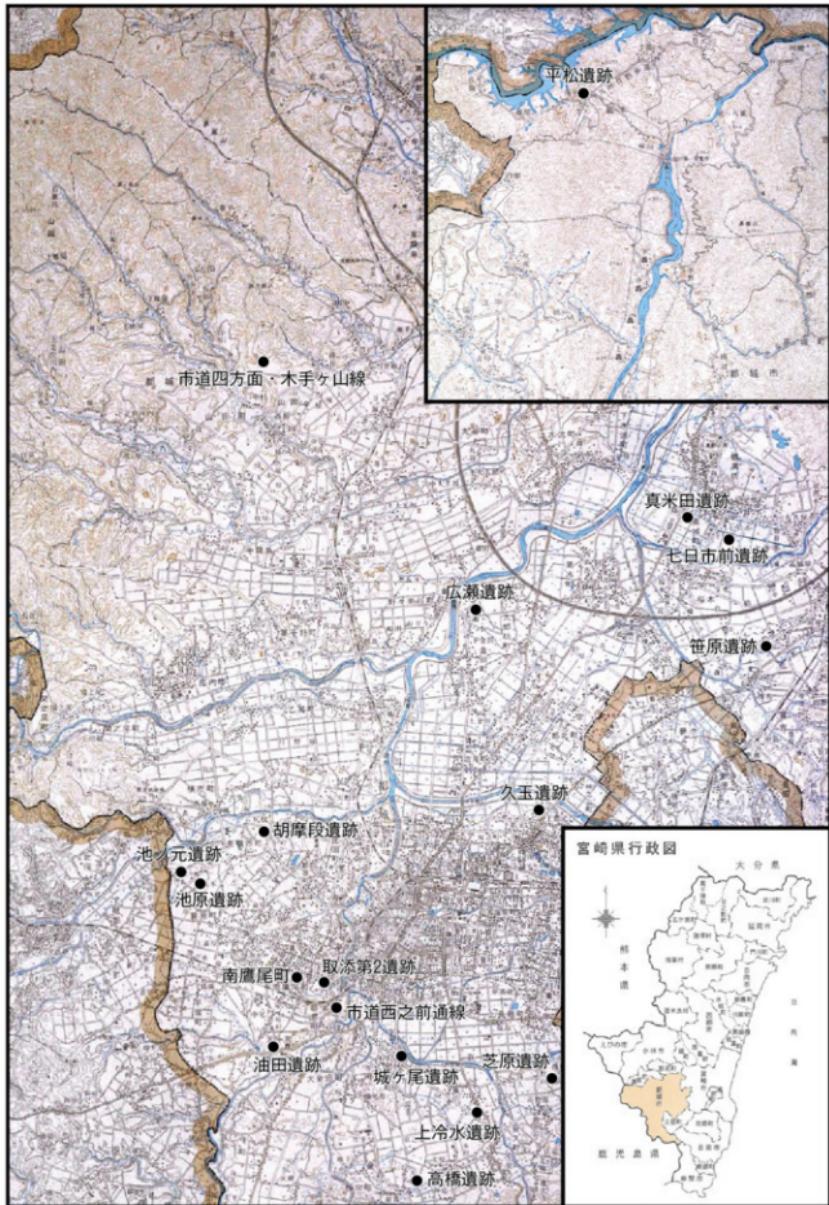
都城盆地の中央部には1級河川の大淀川が南から北へ支流を集めながら貫流している。盆地の東側では大淀川の支流によって開析された扇状地が発達しており、西側には比較的に起伏の少ないシラス台地が形成されている。地下水や湧水にも恵まれ、農畜産業が発達している。

当地域では霧島火山群や桜島火山をはじめとする火山群からの噴出物が数多く分布している。主なものとして、桜島文明降下軽石、霧島御池降下軽石、鬼界アカホヤ火山灰があげられる。桜島文明降下軽石は、桜島起源の降下軽石で文明年間（1491年）に噴出した。色調は白色から淡黄白色である。御池降下軽石は霧島火山御池起源の軽石で、噴出年代は約4,200年前とされている。色調は黄白色から黄色である。鬼界アカホヤ火山灰は九州南方約40kmに位置する鬼界カルデラ起源の降下火山灰で、噴出年代は約6,300年前とされている。黄橙色の獨特な色調から、他の堆積土層との判別が容易である。これら3つの火山噴出物は、堆積層厚に地域差こそあるが、それぞれに特徴ある色調と都城盆地ほぼ全城に分布することから、遺跡調査の際の重要な指標となっている。

本書には、公共事業や民間開発等の各種開発事業に伴い、都城市教育委員会が国県の補助を受けて平成22年度に実施した下記遺跡の試掘・確認調査を報告する。

番号	遺跡名(遺跡番号)	所 在 地	調査原因	調 査 期 間	調査面積
1	久玉遺跡(M4006)	郡元町4丁目 23-17外	公園撤去 2010.6.2	2010.5.17 ~ 5.18 2010.9.21	39.3 m ²
2	平松遺跡(TZ-H013)	高崎町笛木 959	学校建設	2010.9.29	6.5 m ²
3	市道西之前通線	都島町	道路改良	2010.10.26 ~ 10.27	10 m ²
4	市道四方面・木手ヶ山線	山田町山田	道路改良	2010.9.8	34 m ²
5	七日市前遺跡(TJ2025) 真米田遺跡(TJ3009)	高城町大井手地区 高城町穗溝坊地区	工業団地造成 2010.11.18 ~ 12.10		380 m ²
6	芝原遺跡(M7058)	豊満町 2632-1 外	福祉施設建設	2010.4.6 ~ 4.13	48 m ²
7	油田遺跡(M5018)	五十町 5210-5 外	店舗建設	2010.5.11 ~ 5.13	22 m ²
8	広瀬遺跡(M9003)	金田町 48	個人住宅建設	2010.6.3	3.75 m ²
9	取添第2遺跡(M5023)	都島町 518-4 外	店舗建設	2010.6.28	4 m ²
10	胡摩段遺跡(M6004)	横市町 3994-1 外	宅地造成	2010.7.6 ~ 7.7	24 m ²
11	池原遺跡(M6010)	糸原町 1923-2 外	宅地造成	2010.7.22	24 m ²
12	笠原遺跡(YK48)	山之口町富吉 2907 外	福祉施設建設	2010.7.30	24 m ²
13	高橋遺跡(M7039)	梅北町 2488-3 外	個人住宅建設	2010.8.4	4 m ²
14	城ヶ尾遺跡(M1004)	下長飯町 1849 外	集合住宅建設	2010.8.10	12 m ²
15	南鷹尾町	南鷹尾町 1922-1 外	福祉施設建設	2010.8.17	14 m ²
16	上冷水遺跡(M7055)	安久町 6126-6 外	宅地造成	2010.10.7	12 m ²
17	池ノ元遺跡(M6008)	糸原町 1870-1 外	宅地造成	2010.11.11 ~ 11.12	20 m ²

平成22年度 市内遺跡 試掘・確認調査地一覧表



平成22年度 試掘・確認調査地点位置図 ($\text{S}=1/100,000$)

久玉遺跡（遺跡番号：M4006）

調査地 都城市郡元町4丁目23-17外
 調査原因 公園撤去
 調査期間 2010.5.17～5.18 6.2
 調査面積 39.3m²（対象面積：4.500m²）
 調査担当者 桑畠光博 下田代清海
 調査後の措置 事業着手

位置と環境

対象地は、沖水川の氾濫原に面した開析扇状地（一万城扇状地）の端部に位置する。現状は稻荷神社境内裏の児童公園である。

調査結果

公園施設と植栽を避けてトレチ11ヶ所を設定した。1Tと2Tでは公園造成の際に黒色土層（2層）が削平を受けており、遺構・遺物は確認できなかった。また、1Tは霧島御池降下軽石層を除去して、より下位に堆積した鬼界アカホヤ火山灰下の土層も確認したが、遺物は検出されなかつた。

3Tでは公園造成土下（地表下約25cmレベル）の面で、東西方向に向むく中世の溝状遺構と土坑を確認した。溝状遺構（SD1）は、幅約1m、深さ20cmである。黒色土（2層）が埋土であるが、遺物は出土しなかつた。

4・5・7Tは公園造成の際か、それ以降の植栽抜根等により、御池降下軽石（5層）まで搅乱を受けている。

6Tと8Tは、表土直下に桜島文明軽石の部分堆積が見られ、それ以下に黒色土（2・3層）が良好に堆積していた。両トレチからは2層上位から中世の土師器小片が数点出土したが、遺構は検出されなかつた。

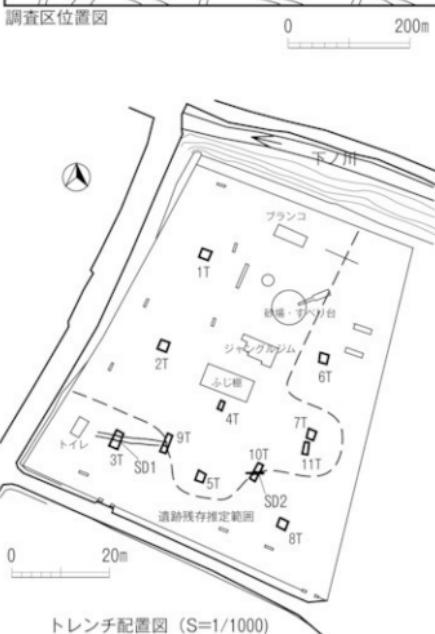
3Tで検出された溝状遺構（SD1）の走向確認のために設定した9～11Tのうち、9Tでは、SD1をとらえることができたが、同トレチ内で検出されたSD1の東半分が公園造成の際に削平されていることが判明し、同遺構は9T以西に残存することが推定された。10Tでは公園造成時の搅乱を受けながらも、黒色土（2層）を埋土とする、幅40cm、深さ50cmの溝状遺構（SD2）が確認された。走行方向としては、約2.5mの間隔において、SD1と並行しているものと推定される。SD1とSD2からはいずれも遺物は出土していないが、埋土により中世のものと推定される。11Tは北側に隣接する7Tと同様に、御池降下軽石（5層）まで搅乱を受けていた。

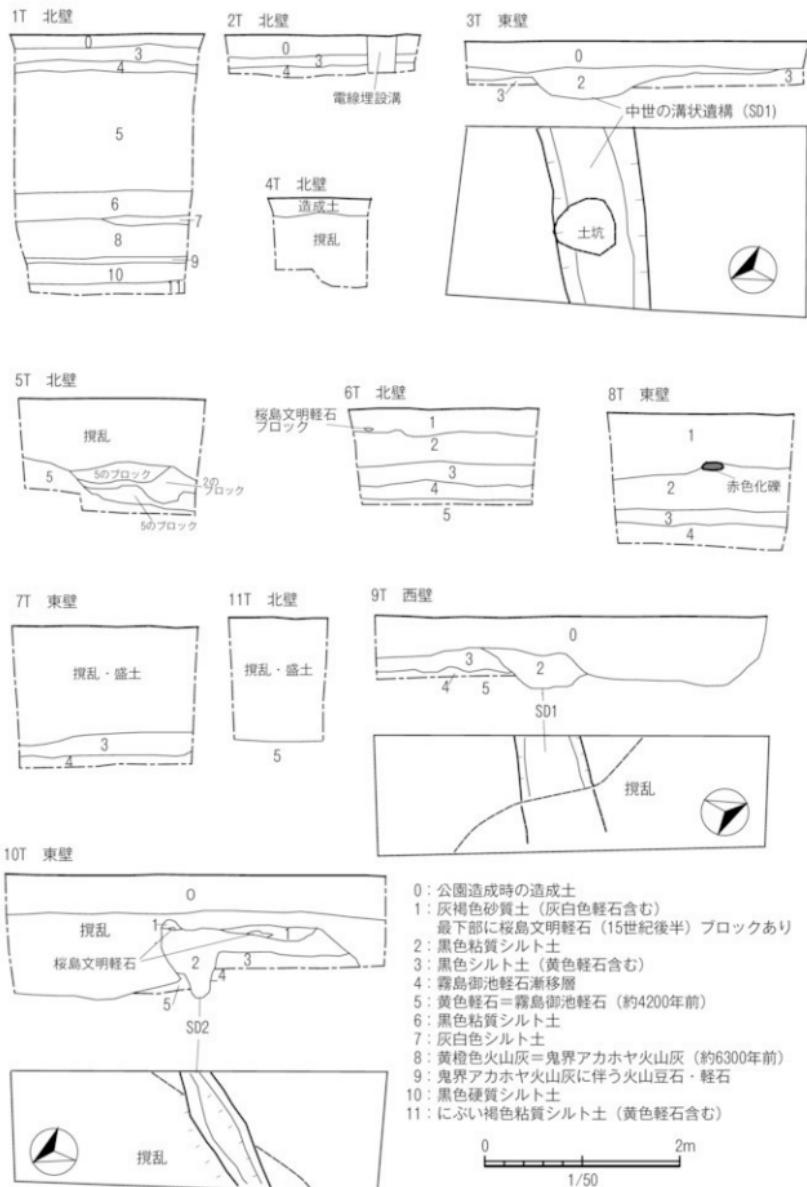
まとめ

対象地の南側で中世の溝状遺構が確認されたが、残存状況は良好でない。また、東端部において、極めて密度の低い中世の遺物包含層が確認された。

対象地の全域が周知の埋蔵文化財包蔵地に含まれるため、土木工事等に先立ち文化財保護法94条第1項の通知が必要となる。

後日、公園敷地変換に伴う道具等の公園施設撤去工事が行なわれた際に、この通知に基づく工事立会が実施されている。





久玉遺跡確認トレンチ断面図・遺構平面図



1T 完掘



2T 完掘



3T 溝状遺構検出



3T 溝状遺構完掘（中央は半裁した土坑）



9T 溝状遺構検出



9T 溝状遺構完掘



10T 溝状遺構検出



10T 溝状遺構完掘

久玉遺跡確認調査 調査状況

平松遺跡（遺跡番号：TZ-H013）

調査地 都城市高崎町笛水959 笛水小学校
 調査原因 体育館改築
 調査期間 2010.9.21
 調査面積 6.5m²（対象面積：約900m²）
 調査担当者 栗畠光博 下田代清海
 調査後の措置 本調査予定

位置と環境

対象地は、大淀川の支流である岩瀬川の右岸、北側と西側を山地に囲まれたシラス台地西端に位置する。平成21年度に試掘調査を実施したが、体育館の建設予定地が変更となったため、平成22年度に追加調査を実施した。トレンチ番号は通算番号とした。



調査結果

体育館建設予定地に5T・6Tを設定した。

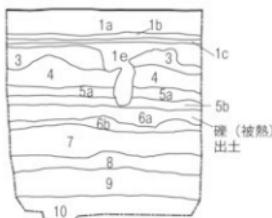
両トレンチとも表層にグラウンドの整地層がある。それより下位は、4層の鬼界アカホヤ火山灰をはじめ良好な堆積状況を保っていた。平成21年度の調査と同様に、遺物は霧島牛のすね火山灰(5層)よりも下層の6層から出土した。6Tでは縄文土器、石鎌や磨石、礫が出土した。また、5Tでは、霧島小林軽石(約15000年前)と推定される硬質の軽石層も検出されたが、その下位のローム層からは遺物の出土はなかった。

検出された土器は、縄文時代早期後葉の平柄式土器である。当該地には、縄文時代早期の遺跡(集落跡)が良好な状態で残存していると考えられる。

まとめ

平成21年度の調査に加えて、平成22年度の調査でも遺跡が確認されたため、今後の事業計画における遺跡の取扱について協議が必要となり、体育館建設に先立っては本発掘調査が必要となる。また当該地は今後、周知の埋蔵文化財包蔵地に含まれることとなるため、土木工事等を行なう場合は、文化財保護法94条第1項の届出が必要となる。

5T 北壁



0:灰黒色砂質シルト(学校畑耕作土)

1a:黄褐色整地層

1b:黒褐色整地層

1c:シラス整地層

1d:褐灰色整地層(コンクリートブロック含む)・旧校舎基礎

1e:アカホヤ・牛のすね火山灰の混在した埋め立て土

2a:にぶい褐色微砂質シルト土(5mm以下赤褐色スコリア・炭化粒含む)

2b:にぶい黄褐色微砂質シルト土(黄色軽石・赤褐色スコリア含む)

3:オリーブ灰色砂質シルト土(1cm以下の赤褐色スコリア含む)

4:黄橙色砂質層(最下部に火山豆石あり)

=鬼界アカホヤ火山灰(約6300年前)

5a:灰色砂質層=霧島牛のすね火山灰

5b:灰オリーブシルト土

6a:にぶい褐色粘質シルト土

(オリーブ灰色粘質シルト土ブロックと

5mm以下の黄色軽石・赤褐色スコリア含む)

6b:にぶい褐色粘質シルト土

(オリーブ灰色粘質シルトブロック少量含む)

7:黒褐色粘質シルト土(5mm以下の黄色軽石少量含む)

8:にぶい褐色粘質シルト土

(2cm以下の黄色軽石と5mm以下の白色軽石少量含む)

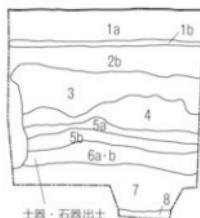
9a:灰黃褐色微砂質シルト土(3cm以下の黄色軽石含む)、かたくしまる

9b:3cm以下の黄色軽石(3cm以下の岩片含む)、かたくしまる

=霧島小林軽石か

10:浅黄色粘質シルト土

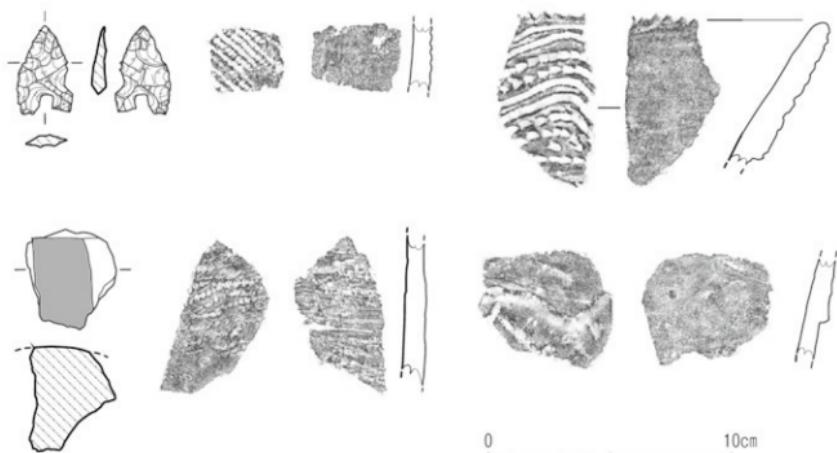
6T 北壁



トレンチ土層断面図



平松遺跡 出土遺物



※ ■は研磨痕の範囲

平松遺跡 出土遺物実測図

市道西之前通線

調査地 都城市都島町市道拡幅予定地
 調査原因 市道拡幅
 調査期間 2010.9.29
 調査面積 10m²(対象面積:約1,200m²)
 調査担当者 下田代清海・久松亮
 調査後の措置 工事着手予定

位置と環境

対象地は11の独立した曲輪から構成される中世城郭「都城」の城域内に位置している。市道西之前通線の一部は古来、犬之馬場と呼ばれており、弓場田口から本丸(今の都城歴史資料館所在地)の東を通り、小城と南之城の間を通り、大岩田口までの道筋が各種の古絵図で確認できる。

調査結果

買収済拡幅予定地にトレーンチ3ヵ所を設定した。

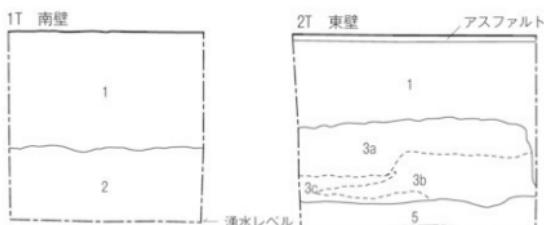
1Tでは造成土の下は洪水堆積層となっていた。2mほど掘り下げた地点で湧水が見られた。2Tは厚い造成土の下は、10cm以下の白色軽石を多量に含む火山灰層となっていた。3Tでは旧水田耕作土とその基盤となる酸化鉄の沈着層が確認できたが時期は不明である。遺物の出土は無かった。

まとめ

3Tで確認した時期不明の水田跡以外に遺構・遺物は確認されなかったので、今回試掘した平成23年度施工予定区間については、発掘調査等は不要である。ただし、平成24年度以降に施工予定の、今回の調査した区画のすぐ南側は「小城」の推定地にあたるため、別途、遺跡の残存状況を確認する必要がある。



トレーンチ配置図(S=1/2000)



- 1 : 棕色砂質シルト+シラス+5cm以下の礁+10cm以下の白色軽石+コンクリート+レンガの混土層=造成土
- 2 : 褐灰色砂質シルトと灰色砂粒の互層=洪水堆積層
- 3a: にぶい黄色シラス(20cm以下の白色軽石をまばらに含む)=造成土
- 3b: にぶい黄褐色シラス+にぶい黄橙色シラスの混土層=造成土
- 3c: 暗褐色砂質土(1cm以下の白色軽石を含む)=造成土
- 4a: 褐灰色シルト(3cm以下の白色軽石を含む)。酸化鉄を糸根状に多量含む)=旧水田耕作土
- 4b: 灰褐色砂質シルト(3cm以下の白色軽石・5mm以下の黄色軽石を含む)。酸化鉄を糸根状に多量含む)=旧水田耕作土
- 5 : 灰黄褐色火山灰(10cm以下の白色軽石を多量に含む)

0 2m

トレーンチ土層断面図



竹之下都城御城絵図（部分）



1T 南壁



2T 東壁



3T 北壁



3T 酸化鉄沈着の状況

市道四方面・木手ヶ山線

調査地 都城市山田町山田市道改良予定地
 調査原因 市道改良
 調査期間 2010.10.26～10.27
 調査面積 34m² (調査対象: L = 770m)
 調査担当者 栗畠光博 久松亮
 調査後の措置 事業着手予定

位置と環境

対象地は小手ヶ山より広がる台地上に形成された谷状の地形に、昭和58年より一堂ヶ丘公園の整備のため大規模な造成がなされ、平成12年からは国営の農業用ダムである木之川内ダムの工事での廃土を持ち込み、大規模な埋め立てがなされている。そのため旧来の地形は、ほぼ失われている。



調査結果

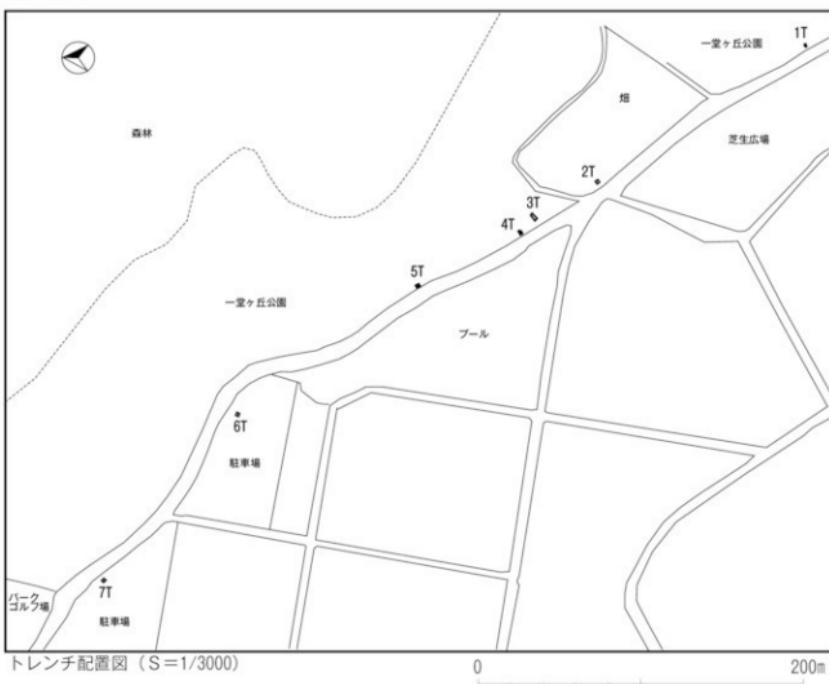
掘削や路線変更が計画されている区間にトレンチ7ヵ所を設定した。ほぼ全域が大規模な造成を受けていたが、4Tで床面に硬化面を伴う南北方向に向走る溝状の遺構を確認した。遺跡と思われる路面を被覆した火山灰は霧島大谷第3テフラ・宮杉火山灰(9世紀後半以降)の可能性があり、この道路はそれ以前のものと推測される。

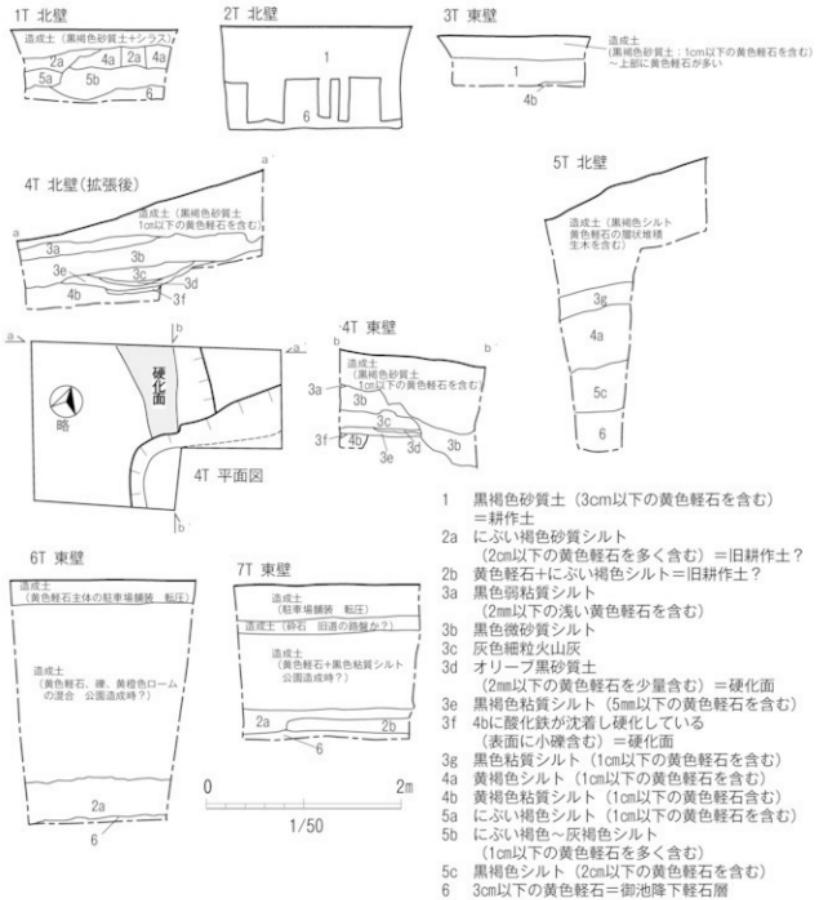
4Tの南側に設定した2m×4mの3Tではこの道路は確認できなかった。北側は現道により破壊されていると考えられることから、この遺構についてはこれ以上の範囲には広がらないと考えられる。4Tでは繩文土器1点が出土しているが、道路とは時期が合致しない。4T以外では遺構・遺物は確認できなかった。

まとめ

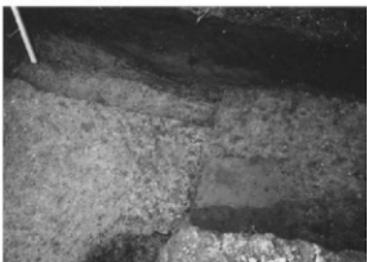
4Tで確認できた遺跡については、これ以上の調査は困難である。それ以外の当該地に遺跡が残存する可能性は低い。よって、当該道路改良工事については文化財保護法上の問題はない。

ただし4T設定箇所近傍については、遺跡残存の可能性が否定できないことから、施工に際しては、遺跡に留意した慎重な施工が求められる。





市道四方面・木手ヶ山線 トレニンチ土層断面図及び平面図



七日市前遺跡（遺跡番号：TJ2025）
真米田遺跡（遺跡番号：TJ3009）

(都城市高城町雇用創出ゾーン)
整備に係わる試掘調査

調査地	都城市高城町大井手地区 穗溝地区
調査原因	工業団地造成
調査期間	2010.9.8. 11.18~12.10
調査面積	380m ² (対象面積:228,000m ²)
調査担当者	下田代清海 久松亮
調査後の措置	山下大輔 加賀淳一 本調査予定



位置と環境

対象地は、大淀川の支流東岳川右岸の低地に位置していて、戦前から現代にいたるまで、数次にわたり農地整備が行われた農地である。高城高校東側の大井手地区(約55,000 m²)と、高城高校の西隣から国道10号線までの穂満坊地区(約173,000 m²)に大きく分けられる。穂満坊地区内に位置する高城高校の弓道場は、高校の南側区画への移設が予定されていることから、その移設予定地も調査の対象とした。

南側を流れる東岳川は、穂満坊地区の東側約500m付近で大淀川と合流している。平成21年度には、大井手地区の北側にある高城小学校の校舎改修の際に試掘調査を実施している。その際は、表土下より砂礫層の堆積が確認されたので、調査着手前には対象地の大部分は氾濫原であるのではないかと推測されていた。

大井手地区と穂満坊地区のほぼ中間付近が近世の薩摩街道の推定地である。大井手地区の西側隣接道路を北に向かった辻には災難除けの石敢當がみられる。

穂満坊地区は天文11年(1542)と慶長4年(1599)に激戦が繰り広げられた大楽古戦場の推定地であり、穂満坊地区北側の住宅地内には古戦跡跡の石碑が残されている。

調査結果

調査はトレントを対象地にまんべんなく設定し、遺構等を確認した場合は、随時トレントの拡張と追加トレントを設定した。最終的な設定トレントは100カ所である。

大井手・穂満坊の両地区とも、南側の東岳川に向かうにつれて、遺物は少なくなる。現耕作土の下が砂礫層となっているトレントもあり、包含層自体が存在しないトレントも多い。

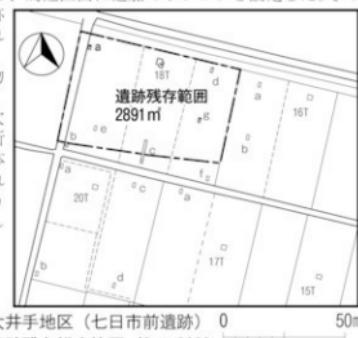
大井手地区では18Tにて土坑状の落ち込みを確認したため、周辺区画に追加のトレントを設定した。その結果、北西端の3区画の既設の暗渠水路の北側において遺跡の残存を確認した。出土品から古代と中世の2時期に分かれるとと思われる。字名から「七日市前遺跡」とした。

弓道場移設予定地にもトレントを設定したが、遺構・遺物ともに確認できなかった。

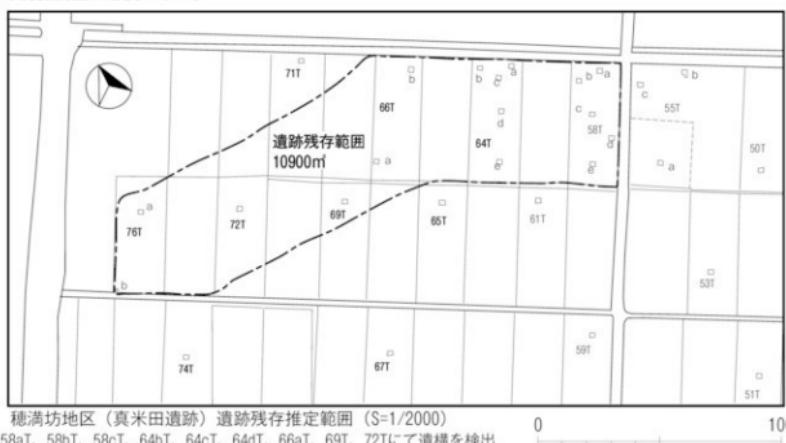
穂満坊地区では、58T・64T・66T・72Tにて、土坑・柱穴(ピット)・溝状遺構を確認した。北西隅の区画を斜めに横断するように遺跡の残存が推定できる。出土品から古代を主体とすると思われるが、一部に弥生土器や中世の遺物もみられる。字名から「真米田遺跡」とした。なお、29Tでも遺物を伴う黒色土の落ち込みを確認したが、トレントを拡張して確認した結果、自然地形であると判断し、遺跡の範囲から除外した。

まとめ

大井手地区では七日市前遺跡(約2,900m²: 同時期に改貞拡張予定の西側道路部分を含む)、穂満坊地区では真米田遺跡(約10,900m²)の残存を確認した。遺跡の残存範囲に掘削等を伴う工事を施工する場合は、遺跡の本発掘調査が必要となる。

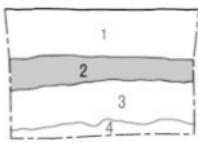


大井手地区(七日市前遺跡) 0 50m
遺跡残存推定範囲 (S=1/2000)
※18T、18aT、18dT、18gTにて遺構を検出

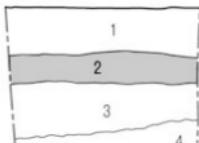


穂満坊地区(真米田遺跡) 遺跡残存推定範囲 (S=1/2000)
※58aT、58bT、58cT、64bT、64cT、64dT、66aT、69T、72Tにて遺構を検出

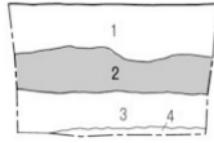
1T 北壁



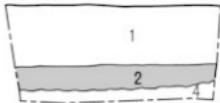
2T 北壁



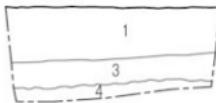
3T 北壁



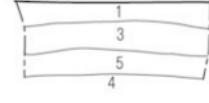
4T 北壁



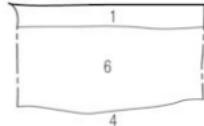
5T 北壁



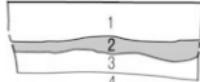
6T 南壁



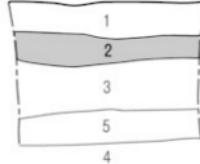
7T 北壁



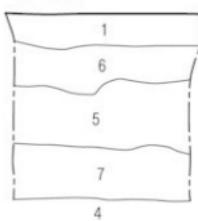
8T 北壁



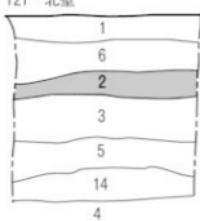
10T 北壁



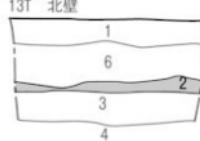
11T 北壁



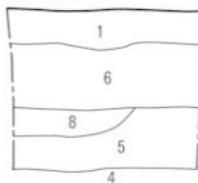
12T 北壁



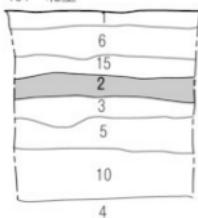
13T 北壁



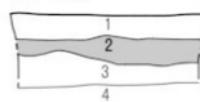
14T 北壁



15T 北壁



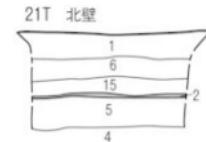
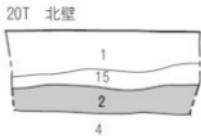
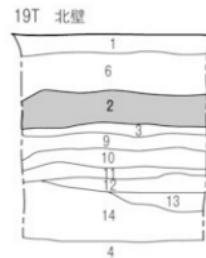
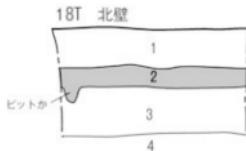
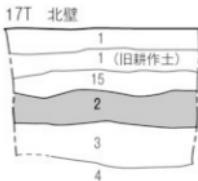
16T 北壁



0 2m
1/50

※ ■ は遺物包含層と考えられる層

雇用ゾーン大井手地区 トレンチ断面図①



* ■ は遺物包含層と考えられる層

0 2m
1/50

【土層説明（1T～21T）】

- 1 : 褐灰色砂質土＝水田耕作土
- 2 : 黒色砂質シルト
- 3 : にぶい褐色砂質土
- 4 : 20cm以下の砂礫層＝洪水堆積層
- 5 : 明黄褐色砂質シルト土
- 6 : 灰褐色砂質土＝造成土
- 7 : 明褐色砂質シルト土と砂層のクロスマニナ
- 8 : 黄褐色砂質シルト土（黄色輕石を非常に多く含む）＝自然流路
- 9 : 黑褐色粘質シルト土
- 10 : にぶい黄褐色粘質シルト土
- 11 : 褐灰色粘質シルト土
- 12 : にぶい黄橙色粘質シルト土
- 13 : にぶい黄橙色年質シルト土（橙色粘質土ブロック混じる）
- 14 : 褐灰色粘質シルト土（橙色粘質土ブロック混じる）
- 15 : 灰黃褐色微砂質シルト土

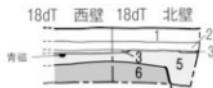
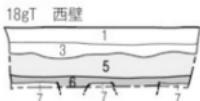
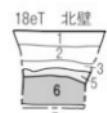
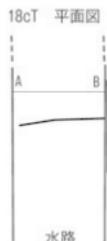
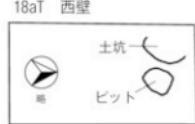
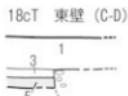
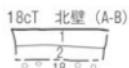
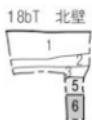
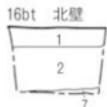
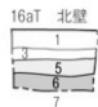
雇用ゾーン大井手地区 トレンチ平面・断面図②



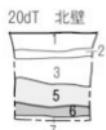
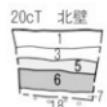
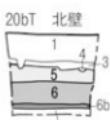
18T 北壁



18T 南側拡張後 土坑検出状況



18dT 平面図



0
1/50

※ □ ■ ▨ は遺物包含層と考えられる層

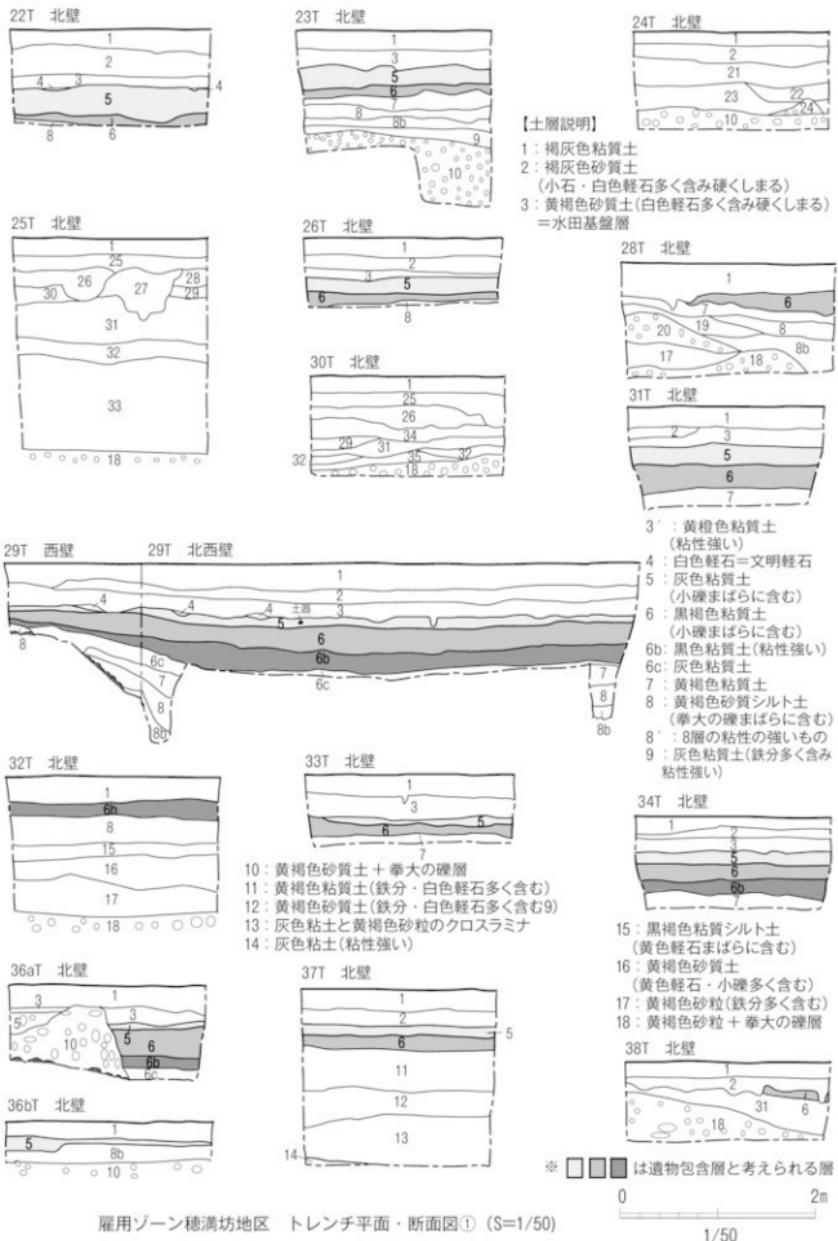
【土層説明 (16aT~20dT)】

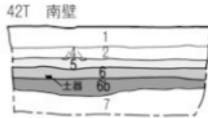
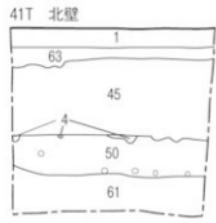
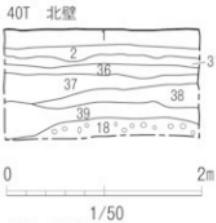
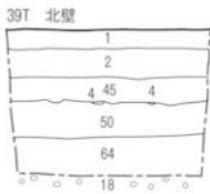
- 1: 褐灰色粘質土
- 2: 褐灰色砂質土 (小石・白色軽石多く含む) = 水田基盤層
- 3: 黄褐色砂質土 (白色軽石多く含む) = 水田基盤層
- 4: 白色軽石 = 文明軽石
- 5: 灰色砂質シルト土
- 6: 黒褐色粘質土
- 6b: 黑色粘質土
- 7: 黄褐色粘質土 (粘性強い)
- 18: 黄褐色砂質土+拳大の疊層



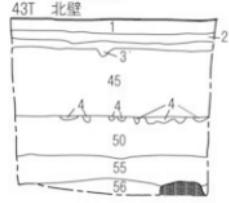
18gT 遺構検出状況

雇用ゾーン大井手地区 トレンチ平面・断面図③ (S=1/50)

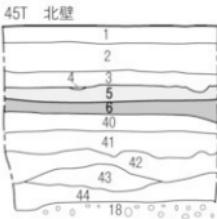




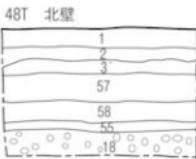
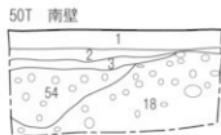
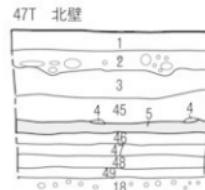
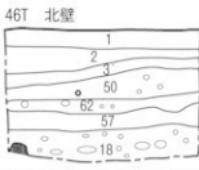
19 : 黒褐色砂質シルト土 (硬くしまる)
20 : 黄褐色砂粒+拳大の礫層
21 : 灰色粘質土 (硬くしまる)
22 : 黑褐色砂質土 (硬くしまる)



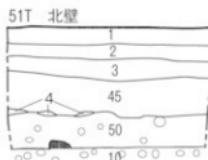
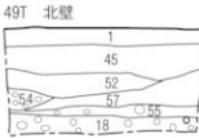
23 : 黄褐色砂質土 (白色軽石多く含む)
24 : 黄褐色砂質土 (白色軽石・礫多く含む)
25 : 黑褐色砂質シルト土 (小礫多く含む)



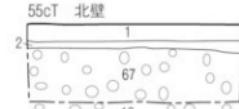
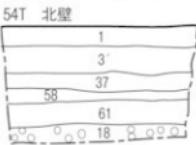
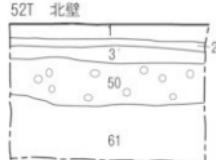
26 : 黄褐色砂質シルト土 (黄色軽石多く含む)
27 : 黑褐色砂質シルト土 (小礫・黄色軽石多く含む)
28 : 黄褐色砂質シルト土 (小礫まばらに含む)



29 : 黄褐色砂質シルト土 (黄色軽石多く含む)
30 : 黄褐色砂質シルト土 (黄色軽石まばらに含む)



31 : 浅黄褐色砂質シルト土 (しまり弱い)
32 : 黄褐色粘質土 (粘性強い)
33 : 黄褐色砂粒・黄色軽石・灰色砂質シルト土 のクロスラミナ



34 : 黄褐色砂質シルト土 (鉄分多く含む
白色軽石まばらに含む)
35 : 黄褐色砂質シルト土 (鉄分多く含む)

* □ ■ ■ は遺物包含層と考えられる層

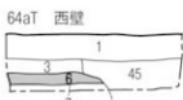
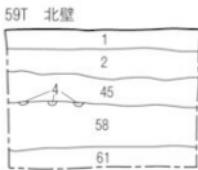
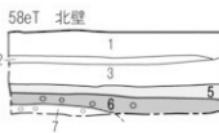
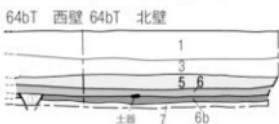
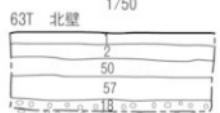
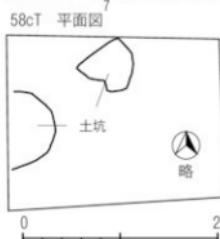
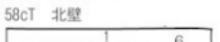
雇用ゾーン穂溝坊地区 トレンチ断面図② (S=1/50)



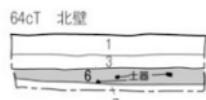
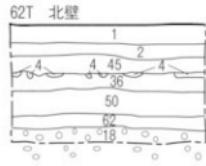
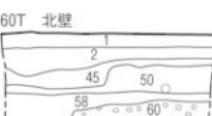
- 36 : 灰褐色粘質土 (白色軽石まばらに含む)
 37 : 灰褐色砂質土 (白色軽石多く含む)
 38 : 灰褐色砂粒+黄色軽石
 39 : 黄褐色砂粒 (黄色軽石わずかに含む)
 40 : 黄褐色粘質土 (鉄分・白色砂粒まばらに含む)
 41 : 灰色粘質土 (鉄分・白色砂粒まばらに含む)
 42 : 灰色粘土 (粘性強い)
 43 : 灰色砂粒と黄色軽石のクロスラミナ



- 44 : 灰色粘土 (粘性強い)
 45 : 灰褐色砂質土 (白色軽石多く含む)
 =造成土
 46 : 黄褐色粘質土 (小礫まばらに含む)
 47 : 黑褐色粘質土 (粘性強い)
 48 : 灰色砂質シルト土
 49 : 黒褐色粘質土 (粘性強い)

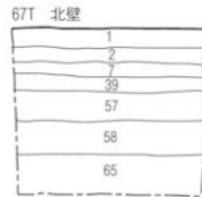
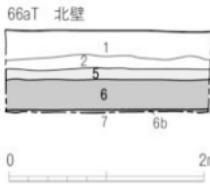
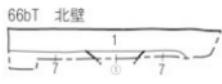
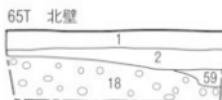
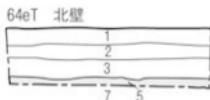
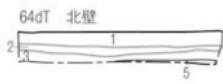


* □ ■ ■ は遺物包含層と考えられる層

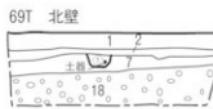
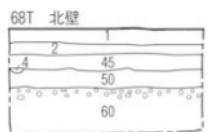


- 50 : 灰褐色砂質シルト土 (拳大の
 黄色軽石を多く含む)
 51 : 黑褐色砂質土 (拳大の礫多く含む)
 =造成土 (土器片混じる)
 52 : 灰色粘質シルト土
 (黄色軽石まばらに含む)

雇用ゾーン穂満坊地区 トレンチ平面・断面図③ (S=1/50)

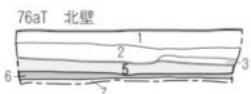
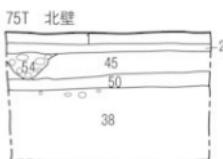
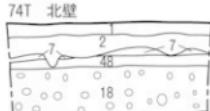
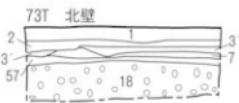
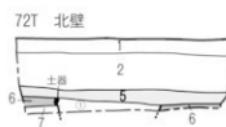
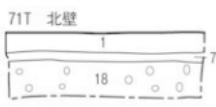
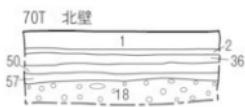


66bT 平面図



※ □ ■ ■ は遺物包含層と考えられる層

① : 黒色粘質土（褐色土塊を含む）



53 : 黄灰色砂質シルト土(黄色軽石多く含む)

54 : 黒褐色砂質土(拳大の礫多く含む)
=自然流路

55 : 灰色粘土(鉄分多く含む)

56 : 灰色粘土(人頭大の礫含む)

57 : 灰褐色砂粒

58 : 灰褐色砂質シルト土

59 : 黄褐色粘質土 + 拳大の礫層

60 : 黄褐色砂粒 + 拳大の礫層

61 : 茶褐色砂粒 + 黄色軽石のクロスラミナ

62 : 灰白色砂粒 + 拳大の礫層

63 : 灰白色火山灰 +

黄褐色砂質シルト土の混層

64 : 灰色粘土 + 灰色砂粒のクロスラミナ

65 : 灰色砂粒(白色軽石まばらに含む)

66 : シラスの造成土(礫多く含む)

67 : 茶褐色砂粒 + 灰色粘土=造成土

雇用ゾーン穂満坊地区試掘トレンチ平面・断面図④ (S=1/50)



29T 遺構検出（拡張後に自然地形と判明）



29T 拡張部完掘



58aT 遺構検出



58bT 遺構検出



58cT 遺構検出



66bT 遺構検出



72T 遺物出土状況



76aT 遺物出土状況

雇用ゾーン穂満坊地区 調査状況

芝原遺跡（遺跡番号：M7058）

調査地 都城市豊満町 2632-1 外
 調査原因 福祉施設建設
 調査期間 2010.4.6 ~ 4.13
 調査面積 48 m²（対象面積：12,718 m²）
 調査担当者 久松亮 近沢恒典
 山下大輔 加賀淳一
 調査後の措置 事業着手予定

位置と環境

対象地は、都城盆地の東南部、萩原川、安久川、崩川に開まれた開析扇状地で、南側に隣接する老人ホームとは1.5 ~ 2mの比高差がある。周辺住民の話では戦後の耕地整備により、大規模な削平を受けているとのことである。



調査結果

トレント 12 カ所を設定し、御池降下軽石層上面にて遺構検出を行なった。IT のみ、鬼界アカホヤ火山灰層下まで掘り下げた。8T は掘削中に湧水がみられたため、掘り下げを中止した。

御池降下軽石層の検出状況から判断すると、かつて当該地は南から北へ緩やかに傾斜していたと考えられる。ほぼ全域において、ゴボウ等の作付けによるとと思われる掘削が地表面から約 70 ~ 90 cmまで行なわれていた。南西部の 10 ~ 12T では、特にそれが顕著だった。

遺物は、3 ~ 6T より縄文土器片を中心出土した。4T では特に大きめの土器片が、地表から約 80 cmの深さから出土している。

どのトレントにおいても遺構は検出されなかった。

まとめ

遺構の検出はなかったが、量こそ少ないものの、調査区東側より縄文土器を中心とする遺物が出土した。出土状況から判断すると、4T を設定した地点を中心として、遺跡の残存が推測される。

遺跡残存推定範囲において、掘削工事が予定される場合は、協議が必要となる。それ以外の区域についても、当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地「芝原遺跡」の範囲内であるため、開発に際しては、文化財保護法 93 条第 1 項に基づく届出が必要となる。



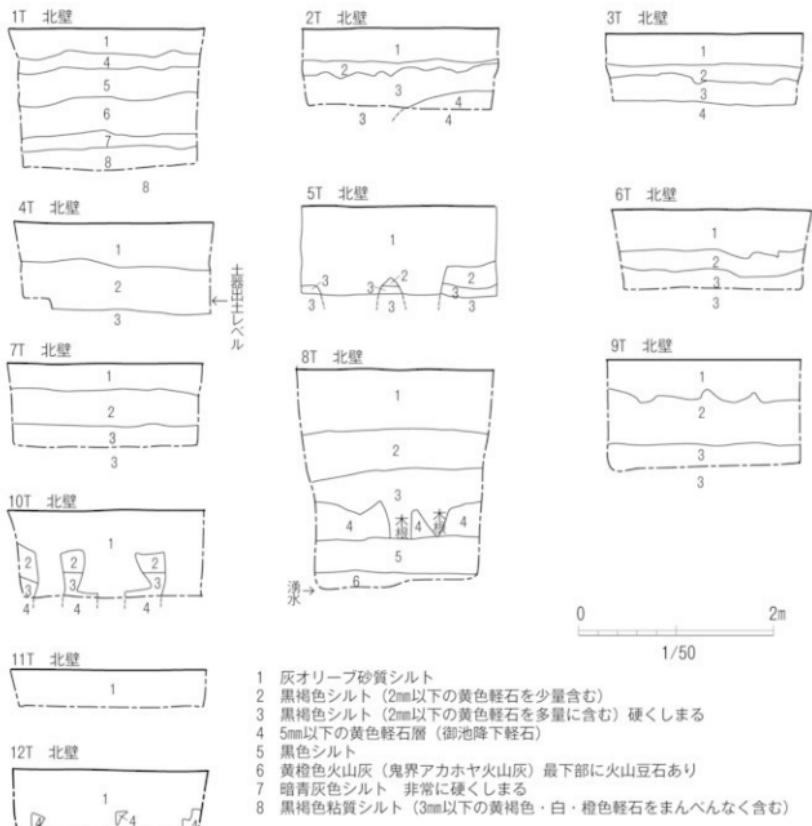
トレント配置図 (S=1/2000)



1T 北壁



4T 遺物出土状況



芝原遺跡 トレンチ土層断面図



8T 北壁



11T 北壁

油田遺跡（遺跡番号：M5018）

調査地 都城市五十町5210-5外
調査原因 店舗建設
調査期間 2010.5.11～5.13
調査面積 22m²（対象面積：約12,000m²）
調査担当者 下田代清海 久松亮
調査後の措置 事業計画見直し

位置と環境

対象地は養原台地の南端部に位置している。対象地の西側約200mの地点は、平成4年に本発掘調査が行なわれ、中世末頃の土坑墓47期と道路状遺構が確認されている。

調査結果

開発予定地にトレーナー7ヶ所を設定し、御池降下軽石層上面にて遺構検出を行なった。6Tのみ鬼界アカホヤ火山灰層の下まで掘り下げた。

現況が畑の1T・2Tの表土下は造成土であった。北側に設定した2Tでは現地表から1.5mほど掘り下げたところで湧水がみられた。造成の状況から、谷地形であったところを近現代に盛土し、現況のようになったものと思われる。

台地上の林地に設定した3Tからは古墳時代から古代の大量の土器片が出土している。4～7Tからも3Tほどではないが、ほぼ同時期の土器片が出土している。

また、7Tからは縄文土器片がごく少数、6Tからは弥生土器が出土している。

遺構の掘り込みは確認できなかったが、3Tはその遺物の量と大きさから、住居跡等である可能性が想定される。

大部分が傾斜地である開発予定地南側は、大木が密集しているため、調査は行なっていない。

まとめ

明確な遺構の掘り込みこそ確認できなかったが、遺物の出土状況から開発予定地北東部の台地上の平坦部約2,600m²には遺跡が残存している可能性が極めて高い。

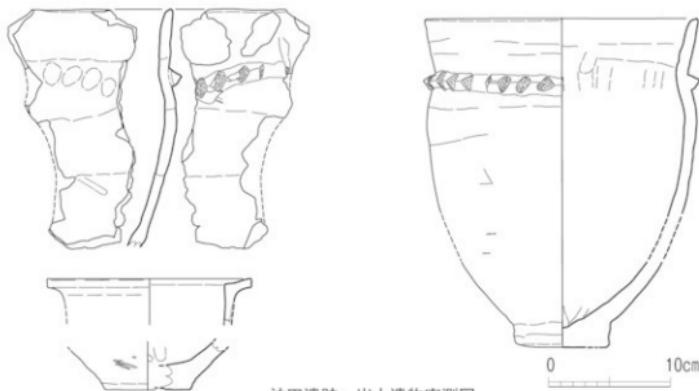
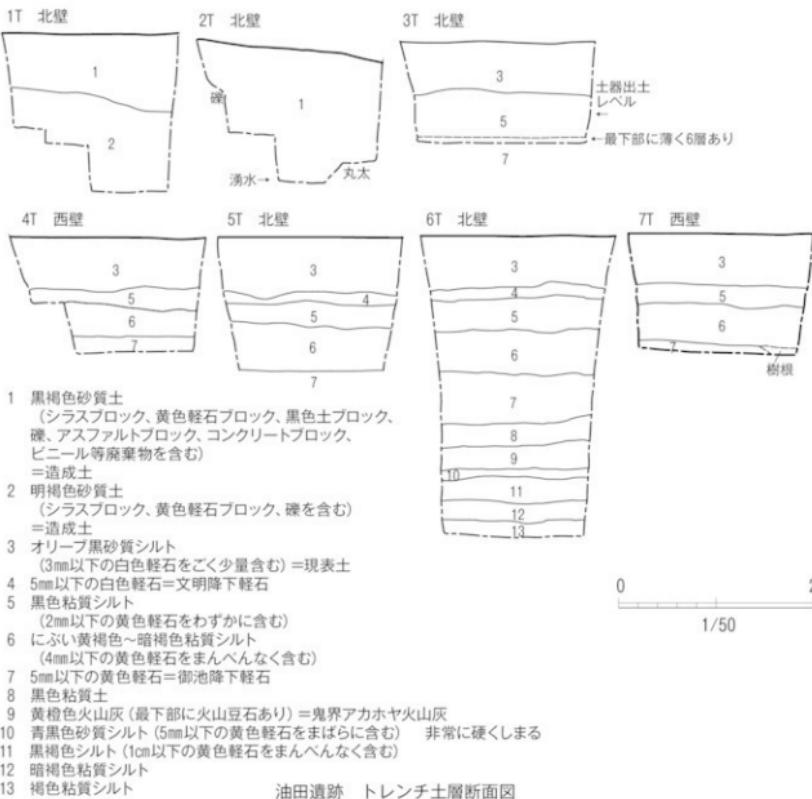
当該地において、掘削を伴う土木工事等が計画される場合は事前の協議が必要であり、掘削によって遺構・遺物包含層まで影響がある場合は発掘調査が必要となる。



3T 遺物出土状況



6T 北壁土層断面



広瀬遺跡（遺跡番号：M9003）

調査地 都城市金田町48
 調査原因 個人住宅建設
 調査期間 2010.6.3
 調査面積 3.75 m² (対象面積: 481 m²)
 調査担当者 下田代清海 久松亮
 調査後の措置 事業着手予定

位置と環境

対象地は大淀川支流によって形成された高木原扇状地の北西端に位置する。周辺の畑より70cmほど高くなっている。

調査結果

浄化槽設置予定箇所に2.5m×1.5mのトレントチ1ヵ所を設定した。

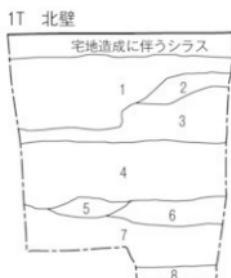
旧耕作土層の下にやや粘質の層があり、その下は河川堆積と思われる砂質土層が続いていた。現地表から2.5mほど掘り下げたが、遺構・遺物の出土はなかった。

まとめ

遺構・遺物は確認されていないが、周知の埋蔵文化財包蔵地に含まれるため、土木工事等を行なう場合は、文化財保護法93条第1項の届出が必要となる。



1T 北壁



- 1 黄褐色砂質土(5mm以下の礫、1.5cm以下の黄色軽石ごく僅かに含む)
- 2 黒褐色砂質シルト
- 3 黄褐色砂質シルト
- 4 にふい黄褐色粘質シルト
- 5 にふい黄褐色砂質土(2cm以下の黄色軽石まんべんなく含む)
- 6 にふい黄褐色砂質土
- 7 黄褐色砂質土
- 8 灰黄褐色砂質土(植物遺体と思われる黄褐色の斑紋あり)



トレントチ土層断面図

取添第2遺跡（遺跡番号：M5023）

調査地 都城市都島町 518-4 外
 調査原因 店舗建設
 調査期間 2010.6.28
 調査面積 4 m²（対象面積：339.29 m²）
 調査担当者 下田代清海 久松亮
 調査後の措置 事業着手

位置と環境

対象地は14世紀後半の築城以来、改修と拡張を繰り返した中世城郭「都城」を構成する曲輪のうち、最後に整備された取添曲輪の北側に位置している。

江戸時代に作成された『竹之下都城御城図』では、道路と曲輪に挟まれた掘のようく描かれている。

調査結果

トレント1カ所を設定し掘り下げた。表土下は黄褐色の砂粒層とシラスの混土層が縞状に堆積していた。転圧されている様子はないため、宅地開発等による造成ではなく自然堆積と思われる。そのような堆積が2mほど続いた。混土層の上部からは瓦片やコンクリート片など昭和期のものが多数出土したほかは、遺物の出土はなかった。

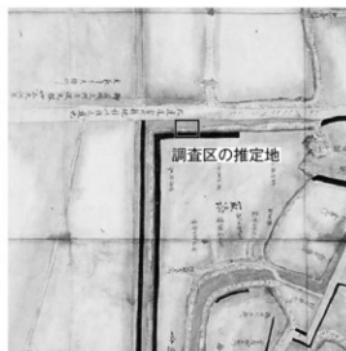
さらに掘り下げたが状況に変化はなく、地表より約3m下にて、土の色調は変わったが、堆積状況そのものに変化はみられなかつた。

一国一城令による廃城後に、空堀が自然堆積により埋没したとも推測されるが、最深部で3.5mまで掘り下げたが空堀の掘削ライン等は確認できなかつた。

まとめ

遺構・遺物とともに確認できず、対象地に遺跡が残存する可能性は低く、仮に空堀等の遺構が残存していたとしても、当該開発計画により影響を受ける可能性は極めて低い。

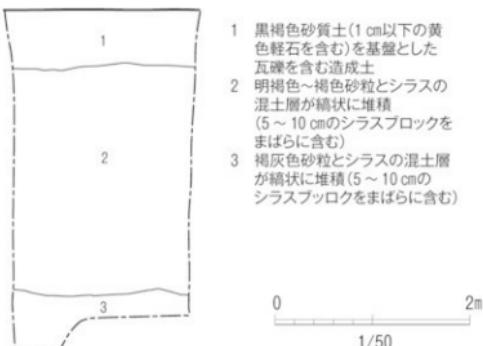
よって、事前の調査等は必要としない。開発事業者より文化財保護法第93条第1項の届出が平成22年7月15日付けで提出された。それに対して、宮崎県教育委員会は平成22年7月26日付で慎重に施工する旨を通知した。



竹之下都城御城絵図（部分）



トレント配置図 (S=1/500)



トレント北壁 土層断面図

胡摩段遺跡(遺跡番号 : M6004)

調査地 都城市南横市町 3994-1, 3994-6
 調査原因 宅地造成(建売住宅)
 調査期間 2010.7.6 ~ 7.7
 調査面積 24 m²(対象面積: 2,928 m²)
 調査担当者 下田代清海 久松亮
 調査後の措置 事業着手予定

位置と環境

対象地は蓑原台地の北端部、成層シラス面上に位置する。北側(3994-6)が1mほど低くなっている。対象地から西側に約500mの距離にある田谷・尻枝遺跡では平成8年の調査で、縄文時代早期の落し穴が検出されている。

調査結果

トレーンチ6ヶ所を設定し、作物の除去後に人力にて掘り下げ、御池降下軽石層上面にて遺構検出を行なった。

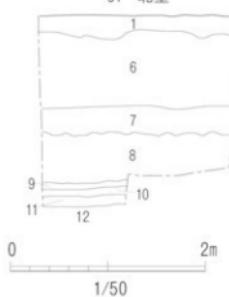
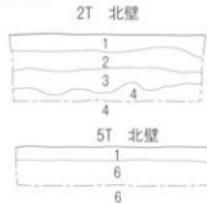
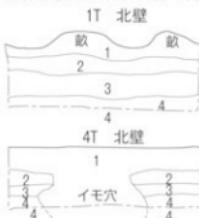
1・2Tは遺構・遺物ともに確認できなかった。3Tでは上層からの掘り込みではあるが、イモ穴にしては大きい掘り込みを西壁側にて確認したため、さらには掘り下げた。埋土中より投棄したと思われる竹根等は出土したが、遺物の出土はなかった。防空壕とも思われるが、明確な時期と用途は不明である。

4Tでは土器の小片4点が出土したが、遺構は確認できなかった。表土に近いため、流れ込みの可能性もある。

5Tは表土直下が御池降下軽石層で、上部は耕地整備により削平されている。6Tも御池降下軽石層上面の状況は5Tと同じである。6Tは鬼界アカホヤ火山灰下まで掘り下げた。5・6Tとも遺構・遺物は確認できなかった。

まとめ

遺構・遺物は確認されていないが、周知の埋蔵文化財包蔵地に含まれるため、土木工事等を行なう場合は、文化財保護法93条第1項の届出が必要となる。



- 1 暗オリーブ褐色砂質シルト(3 mm以下の白色軽石と2 mm以下の黄色軽石僅かに含む)
=現耕作土
- 2 黒色シルト(2 mm以下の白色軽石と2 mm以下の黄色軽石をまんべんなく含む)
- 3 黒色シルト(3 mm以下の黄色軽石をまんべんなく含む)
- 4 黒色シルト(3 mm以下の黄色軽石を多量に含む)=御池降下軽石層への漸移層
- 5 1と2の混土層(1 cm以下の黄色軽石を多量に、10 cm大の4層ブロックをまばらに、腐食していない竹根を含む)層全体がやわらかくカフカフしている
- 6 1 cm以下の黄色軽石=御池降下軽石層
- 7 黒色粘質シルト
- 8 黄褐色火山灰(最下部に火山豆石有り)=鬼界アカホヤ火山灰
- 9 青黒色砂質シルト 非常に固くしまる
- 10 黑褐色粘質シルト(5 mm以下の黄色軽石をまんべんなく含む)
- 11 暗オリーブ褐色粘質シルト(5 mm以下の黄色軽石を多量に含む)
- 12 暗オリーブ褐色粘質シルト(5 mm以下の黄色軽石をごく僅かに含む)

トレーンチ土層断面図



調査区位置図



トレーンチ配置図
(S=1/1000)

0 50m

池原遺跡(遺跡番号 : M6010)

調査地 都城市糸原町 1923-2 外
 調査原因 宅地造成(建売住宅)
 調査期間 2010.7.22
 調査面積 24 m²(対象面積 : 5,343 m²)
 調査担当者 下田代清海 久松亮
 調査後の措置 事業着手予定

位置と環境

対象地は横市川右岸の台地上に位置する。池原遺跡は今回の対象地の南西約200mの地点を平成6年10月に調査している。調査範囲が狭小であったため、住居跡等は確認されていないが、弥生時代中期から後期の土器片が多く出土しているほか、縄文時代後期から弥生時代早期にかけての遺物も散見された。

調査結果

トレンチ6ヵ所を設定し、御池降下軽石層上面にて遺構検出を行なった。1Tは鬼界アカホヤ火山灰の下層、4Tは上層まで掘り下げ、縄文時代中期以前の文化層について確認した。

すべてのトレンチにおいて御池降下軽石層上面まで、ゴボウ等の作付けによると思われる掘削が及んでおり、縄文時代後期以降の文化層の保存状態は極めて悪かった。

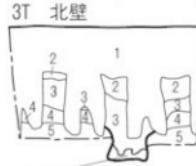
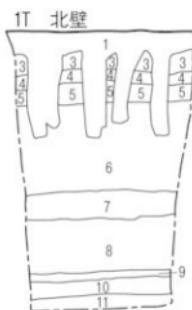
遺物は2Tから縄文土器片1点、近世以降の磁器片2点、3Tから縄文土器片1点が出土した。

遺構は3Tから遺物を伴わないので明確な時期は不明だが、文明降下軽石の堆積状況から中世前後のものと思われる土坑を検出した。

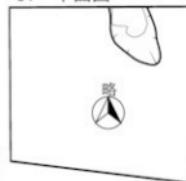
まとめ

2・3Tから若干の遺物と3Tから土坑1基を検出したものの保存状態は極めて悪く、3Tの近辺に遺跡の残存が推測されるが、現地表から1m未満では耕作による破壊を受けているものと思われる。

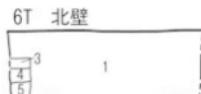
よって、開発予定地南端部において1m以上の掘削を行なう場合は、文化財に関する協議が必要となる。また、それ以外の区域も、周知の埋蔵文化財包蔵地「池原遺跡」の範囲内であるため、開発に際しては、文化財保護法93条第1項に基づく届出が必要となる。



3T 平面図



トレンチ土層断面図・平面図
0 2m
1/50



トレンチ土層断面図・平面図

- 1 灰褐色砂質土
(黄色軽石多く含む)
=表土
- 2 灰白色軽石
=桜島文鏡軽石
- 3 黒色粘質シルト土
(黄色軽石わずかに含む)
- 4 黑褐色砂質土
(黄色軽石含む)
- 5 黑褐色砂質土
(黄色軽石多く含み
硬くしまる)
- 6 黄褐色
=御池降下軽石
- 7 黑色粘質土
(粘性強い)
- 8 黄褐色火山灰
=鬼界アカホヤ火山灰
- 9 黑褐色粘質シルト土
(黄色軽石をまばらに
含み硬くしまる)
- 10 黑褐色粘質シルト土
(黄色軽石を多く含む)
=P11 火山灰濃集層
- 11 暗褐色粘質シルト土
(粘性強い)

笹原遺跡(遺跡番号:YK48)

調査地 都城市山之町富吉 2907 番地外
調査原因 福祉施設建設
調査期間 2010.7.30
調査面積 24 m²(対象面積: 6.485.09 m²)
調査担当者 下田代清海 久松亮
調査後の措置 事業着手予定

位置と環境

対象地は、花木川右岸の開析扇状地である。宮崎精密(株)の工場敷地内であり、現況は芝生広場で北側の一部が駐車場になっている。

北側道路沿いに古石塔があるが、今回の開発では位置等も含めて変更の予定はない。この古石塔は、工場関係者の話では、本来もう少し南側にあったものを、現在の位置まで近年動かしたとのである。

調査結果

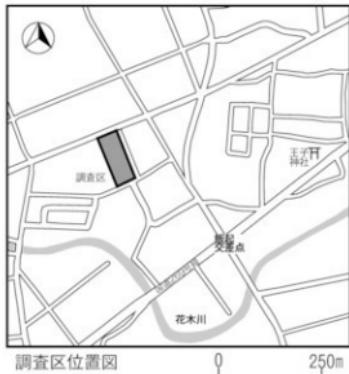
トレーニング 6ヶ所を設定した。すべてのトレーニングで表上下に造成土が確認され、2.5mほど下げた所で湧水がみられたため掘削を中止した。

僅かに地山が残っていた 2Tで確認したところ、白色化したアカホヤ火山灰と思われる層まで掘削され、その上に盛土がされていた。周辺住民の元々耕作地だった所の粘土取りをした後に盛土して、現在の高さまで造成したとの話と一致する。

すべてのトレーニングにおいて、遺構・遺物は確認できなかった。

まとめ

遺構・遺物は確認されていないが、周知の埋蔵文化財包蔵地に含まれるため、土木工事等を行なう場合は、文化財保護法 93 条第 1 項の届出が必要となる。



2T 北壁



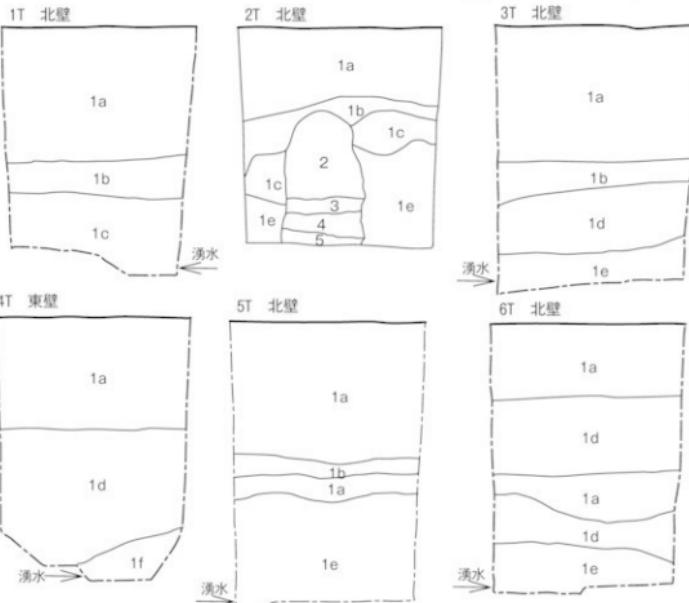
1T 北壁



3T 北壁



5T 北壁



- 1a 明褐色砂質シルトと1~50cmの黒色土ブロックと5cm大のシラスブロックと1~50cmの礫の混土層
 1b 黒褐色砂質シルト（5mm以下の黄色軽石を少量含む）
 1c 銀い褐色粘質シルトと灰褐色シルトの混土層（5cmの大の礫含む）
 1d 1c+黄色軽石+オリーブ黒粘質シルトブロックの混土層
 1e 黄色軽石（造成による）
 1f 灰色砂質土（明褐色土ブロック、2cm以下の黄色軽石含む）
 2 御池降下軽石層
 3 黒色粘質シルト
 4 灰褐色粘質シルト（アカホヤの2次堆積？）
 5 にぶい褐色砂質シルト（白色化したアカホヤ）

0 2m
 1/50

笹原遺跡 トレンチ土層断面図

高橋遺跡(遺跡番号 : M7039)

調査地 都城市梅北町 2488-3 外
 調査原因 個人住宅
 調査期間 2010.8.4
 調査面積 4 m²(対象面積: 495 m²)
 調査担当者 末烟光博 下田代清海
 調査後の措置 事業着手予定

位置と環境

対象地は開析扇状地の南端部にあたる。現況は畑であるが、地権者によれば、ここ数年での、2度にわたり盛土をしたとのことである。

調査結果

個人住宅建設予定箇所に、トレンチ 1 カ所を設定した。

表土直下にシラス主体の盛土(1層)が約1.2mの厚さで堆積し、その下にも旧耕作土(2層)を挟んで、約 50 cm の盛土(3~6層)が認められた。また、トレンチの北東壁に現代のビニール袋片などを含む東西方向に走向する溝の断面がとらえられた。この溝は地籍図にててくる水路と思われる。それ以下は霧島御池軽石の2次堆積層(7・8層)があり、その下は黒ボク土(9層)、不安定な鬼界アカホヤ火山灰(10層)、粘土層(11層)の順に確認された。7層以下の地層は全体的に北東方向に傾斜している。

いずれの層からも遺物の出土はなく、遺構も検出されなかった。

まとめ

遺構・遺物は確認されていないが、周知の埋蔵文化財包蔵地に含まれるため、土木工事等を行なう場合は、文化財保護法第 93 条第 1 項の届出が必要となる。

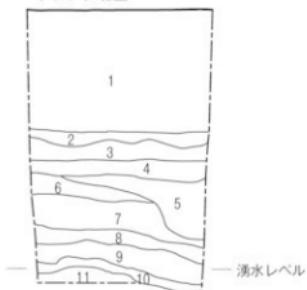


調査区位置図



トレンチ配置図 (\$=1/1000)

トレンチ北壁



- 1: シラス主体盛土
- 2: 暗褐色砂質シルト土=旧畑耕作土
- 3: 鬼界アカホヤ主体盛土
- 4: 褐灰色シルト土
- 5: 黒灰色弱粘質シルト土(ビニール片含む)
- 6: にぶい黄褐色砂質シルト土
- 7: 黄灰色砂質シルト土(5mm以下の白色軽石含む)
- 8: にぶい褐色砂質シルト土(1cm以下の白色軽石多く含む)
=霧島御池軽石の2次堆積
- 9: 黒褐色粘質シルト土
- 10: 黄色のブロック状火山灰=鬼界アカホヤ火山灰
- 11: 褐色粘質土(下部は灰白色)



トレンチ土層断面図

城ヶ尾遺跡(遺跡番号: M1004)

調査地 都城市下長飯町 1849 外
 調査原因 集合住宅建設
 調査期間 2010.8.10
 調査面積 12 m²(対象面積: 1,769.10 m²)
 調査担当者 下田代清海 久松亮
 調査後の措置 事業着手予定

位置と環境

対象地は、梅北川と萩原川に挟まれた開析扇状地に位置する。

西側の隣接地とは数mの段差があり、擁壁が造られた上は、宅地となっている。



調査結果

トレンチ 3ヶ所を設定し掘り下げた。表土のすぐ下からシラスの堆積が見られたため、さらに掘り下げた。1mほど掘り下げ、造成ではなく自然堆積であると判断したため掘削を終了した。

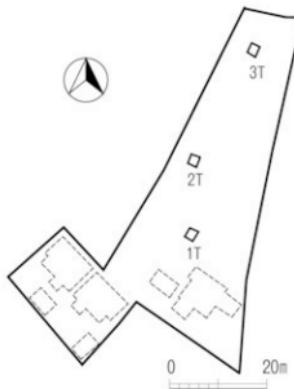
1T では耕作土の下に造成土があり、その下に若干地山の黒褐色土の堆積が見られたが、2T・3T では黒褐色土ではなく、造成土の下が直接シラスとなっていた。1T のシラスはその色調から 2 次堆積と思われる。

遺構・遺物は確認されなかった。

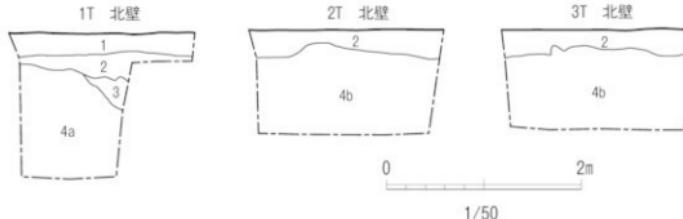
まとめ

土層の状況から判断すると、当該地はかつて北側が高くなっていた傾斜地であり、シラス堆積層の上層まで及ぶ大規模な地形の変改が行なわれ、現在のような平坦地になったものと思われる。

遺構・遺物とともに確認されていないが、周知の埋蔵文化財包蔵地に含まれるため、土木工事等を行なう場合は、文化財保護法 93 条第 1 項の届出が必要となる。



トレンチ配置図 (S=1/1000)



- 1 暗灰褐色砂質土(耕作土)
- 2 オリーブ褐色砂質土+シラス+アカホヤブロック+1cm大的炭化物混土層(造成土)
- 3 黒褐色砂質シルト(1cm以下の黄色軽石をまんべんなく含む)硬くしまる
- 4a にぶい褐色火山灰層(2次シラス)
- 4b 白色火山灰層(1次シラス)

トレンチ土層断面図

南鷹尾町

調査地 都城市南鷹尾町1922-1外
 調査原因 福祉施設建設
 調査期間 2010.8.17
 調査面積 14m² (対象面積: 13,295.61m²)
 調査担当者 下田代清海 久松亮
 調査後の措置 事業着手予定

位置と環境

対象地は冀原台地のほぼ中央、成層シラス面上に位置する。工場敷地内で、既存建物以外の部分も大部分はアスファルトで舗装されている。

東側の都島公園は慶応3年に廃絶された龍泉寺跡、横山病院は一国一城令によって廃城となった都城取添曲輪跡であり、周辺には中近世の史跡が多い。

調査結果

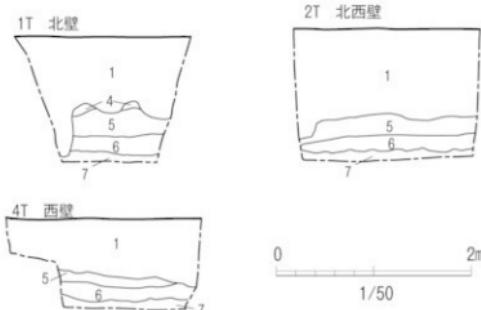
アスファルト舗装を避けて4ヵ所のトレンチを設定した。工場敷地内にも係わらず、すべてのトレンチにおいて御池降下軽石層、及びその上の遺物包含層となりうる黒色土層の残存が確認された。黒色土の上部では文明降下軽石と思われる白色軽石が部分的に確認された。

すべてのトレンチで遺構・遺物は確認されなかった。

まとめ

試掘可能な地点が限られるため、開発予定地全域にトレンチを設定することができなかった。しかし遺物包含層となりえる層が良好に残存していたにも係わらず、遺物がまったく出土しなかったため、当該地に遺跡が残存する可能性は低い。

よって、開発に際して文化財保護法上の支障がない。



- 1 暗オリーブ褐色砂質シルト(10cm以下の礫、黄色軽石・シラスのブロック含む)=造成土
- 2 黒褐色砂質土(1 ~ 10mmの白色軽石をまんべんなく含む)
- 3 2+白色軽石の混土層
- 4 暗オリーブ褐色砂質シルト(5mm以下の白色軽石を多量に含む)=文明軽石の2次堆積?
- 5 黒色シルト(5mm以下の黄色軽石をまばらに含む)
- 6 黒色シルト(5mm以下の黄色軽石をまんべんなく含む)
- 7 黒色シルト(5mm以下の黄色軽石を多量に含む)=御池降下軽石層への漸移層
- 8 御池降下軽石層
- 9 黒色粘質シルト

トレンチ土層断面図

上冷水遺跡（遺跡番号：II7055）

調査地 都城市安久町6126-5、6126-6
 調査原因 宅地分譲
 調査期間 2010.10.7
 調査面積 12m²（対象面積：1,001m²）
 調査担当者 下田代清海 久松亮
 調査後の措置 事業着手予定

位置と環境

対象地は安久川と梅北川に挟まれた、開析扇状地面に位置する。国道沿いの畑で、現在は飼料作物が栽培されている。

調査結果

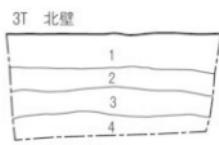
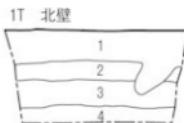
トレチ3ヶ所を設定し、御池降下軽石層上面にて遺構検出を行なった。中央に設定した2Tでは、さらに鬼界アカホヤ火山灰層の下層まで掘り下げたが、現地表から28mの地点で湧水が見られたため、掘削を中止した。
 遺構・遺物は確認できなかった。

まとめ

遺構・遺物は確認されていないが、周知の埋蔵文化財包蔵地に含まれるため、土木工事等を行なう場合は、文化財保護法93条第1項の届出が必要となる。



2T 北壁



0 2m

1/50

トレチ土層断面図



調査区位置図



トレチ配置図 (S=1/1000) 0 20m

- 1 灰オーリーブ砂質シルト
(5mm以下の白色軽石をまんべんなく
3mm以下の黄色軽石をまばらに含む)
- 2 黒色シルト(2mm以下の黄色軽石を極少量含む)
- 3 黒色シルト(5mm以下の黄色軽石を含む)
- 4 黒色シルト(5mm以下の黄色軽石を多量に含む)
=御池降下軽石層への漸移層
- 5 2cm以下の黄色軽石=御池降下軽石層
- 6 黒色粘質シルト層
- 7 黄褐色火山灰(最下部に火山豆石あり)
=鬼界アカホヤ火山灰
- 8 青黒色砂質シルト
(5mm以下の黄色軽石含む)非常に硬くしまる
=牛ノヌス火山灰
- 9 オリーブ褐色砂質シルト
(1cm以下の白色化した黄色軽石を
まんべんなく含む) 硬くしまる
- 10 オリーブ褐色砂質シルト
(1cm以下の白色化した黄色軽石を少量、
2mm以下の赤色スコリアを微量含む)硬くしまる
- 11 暗オリーブ褐色粘質シルト

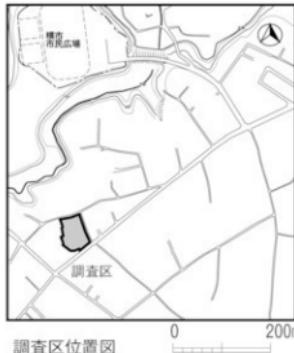
池ノ元遺跡（遺跡番号：M6008）

調査地 都城市資原町1870-1外
調査原因 宅地造成（建売住宅）
調査期間 2010.11.11～11.12
調査面積 20m²（対象面積：3,718m²）
調査担当者 桑畠光博 久松亮
調査後の措置 事業着手予定

位置と環境

対象地は横市川右岸の台地上に位置している。南側の道路より15mほど低くなっている。現在は3筆に分かれているが、中央に進入路と公園スペースを確保した上で、11区画に分割する計画である。

平成22年7月22日に確認調査を実施した池原遺跡の約100m西側に位置する。



調査結果

トレント7ヶ所を設定し、御池降下軽石層上面にて遺構検出を行った。6Tのみ鬼界アカホヤ火山灰下層まで掘り下げた。

1Tでは溝状遺構とそれに先行する柱穴を検出した。遺物は出土しなかったが、溝状遺構には桜島文明降下軽石の堆積が確認できるので、その降下年代から中世以前の時期と推測できる。

2T・3Tでは弥生土器の小片がごく少数出土したが、遺構は検出されなかった。

4Tでは遺構・遺物とともに確認できなかった。

5Tでは土坑2基（南側をSC1、北側をSC2とした）を検出した。SC1は1Tの溝状遺構と同様に桜島文明軽石が堆積している。遺物は縄文土器と思われる土器片1点が出土したが、土坑とは共伴しない。

6Tでは遺構・遺物ともに確認できなかった。

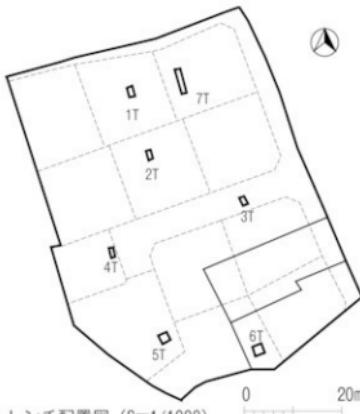
7Tは1Tで検出した溝状遺構の走向確認のために設定したが、遺構は検出できなかった。旧地形では7T設定期所付近の方が高かったようである。

まとめ

遺物は2T・3T・5T・7Tから出土したが、数も少なく遺構と共に伴するものはなかった。遺構は1Tと5Tで検出されたが、土器の出土状況から考えても、広範囲に分布しているとは考えられない。道路整備予定地とその延長線上に設定したトレントからは、遺構は検出していないので、現在の計画では施工はないと判断できる。

遺構が検出された1Tと5Tを含む区画については、施工前に協議が必要となる。

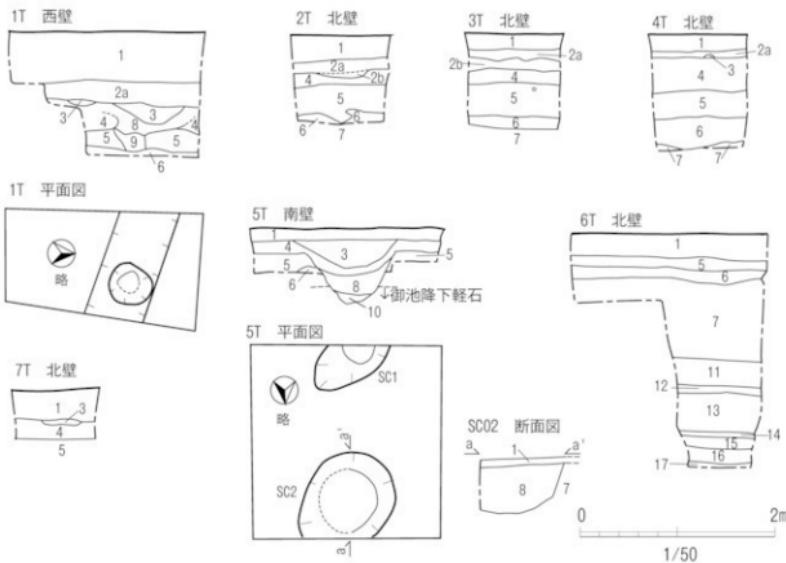
道路部分と協議が必要な区画以外についても、周知の埋蔵文化財包蔵地「池ノ元遺跡」の範囲内であるため、開発に際しては、文化財保護法93条第1項に基づく届出が必要である。



トレント配置図 (S=1/1000)



1T 柱穴検出状況 西側から撮影



池ノ元遺跡 トレンチ土層断面図及び平面図



5T SC1検出状況 北西側より撮影



5T SC2検出状況 西側より撮影

報告書抄録

ふりがな	みやこのじょうしないいせき
書名	都城市内遺跡 4
副書名	
巻次	
シリーズ名	都城市文化財調査報告書
シリーズ番号	第104集
編・著者名	久松 亮
編集機関	都城市教育委員会事務局文化財課 Tel 0986-23-9547 Fax 0986-23-9549
所在地	宮崎県都城市菖蒲原町 19-1 都城市役所菖蒲原町別館 ☎ 885-0034
発行年月日	2011 年 3 月 18 日

所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
久玉遺跡	都城市郡元町4丁目 23-17外	31° 44' 53" 付近	131° 5' 35" 付近	2010.5.17 ~ 5.18 2010.6.2	39.3 m ²	公園撤去
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
散布地	中世	溝状遺構		土師器		
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
平松遺跡	都城市高崎町笛木959	31° 55' 53" 付近	131° 7' 8" 付近	2010.9.21	6.5 m ²	学校建設
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
散布地	縄文	集石遺構?		土器・石器		
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市道西之前通線	都城市都鳥町 市道払幅予定地	31° 42' 49" 付近	131° 3' 5" 付近	2010.9.29	10 m ²	道路改良
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
包蔵地外	不明	水田跡		なし		
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市道四方面・木手ヶ山線	都城市山田町山田 市道改良予定地	31° 49' 43" 付近	131° 2' 22" 付近	2010.10.26 ~ 10.27	34 m ²	道路改良
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
包蔵地外	不明	道路状遺構		土器		
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
七日市前遺跡 真米田遺跡	都城市高城町大井手地区 都城市高城町徳満坊地区	31° 47' 51" 付近	131° 7' 42" 付近	2010.9.8 2010.11.18 ~ 12.10	380 m ²	工業団地
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
散布地	古代・中世	土坑・溝状遺構		土師器・須恵器・青磁		新規発見
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
芝原遺跡	都城市豊満町2632-1外	31° 42' 4" 付近	131° 5' 43" 付近	2010.4.6 ~ 4.13	48 m ²	福祉施設建設
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
散布地	縄文	なし		土器		
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
油田遺跡	都城市五十町5210-5外	31° 42' 23" 付近	131° 2' 17" 付近	2010.5.11 ~ 5.13	22 m ²	店舗建設
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
散布地	古墳・古代	不明		土器・土師器		
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
広瀬遺跡	都城市金田町48	31° 47' 2" 付近	131° 4' 47" 付近	2010.6.3	3.75 m ²	個人住宅建設
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
散布地	中世	なし		なし		

所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
取添第2遺跡	都城市都島町518-4外	31° 43' 7" 付近	131° 2' 53" 付近	2010.6.28	4 m ²	店舗建設
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
散布地	中世?	不明		なし		
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
胡摩段遺跡	都城市南横市3994-1外	31° 44' 39" 付近	131° 2' 14" 付近	2010.7.6 ~ 7.7	24 m ²	宅地造成
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
散布地	古墳	なし		なし		
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
池原遺跡	都城市糸原町1923-2外	31° 44' 15" 付近	131° 1' 23" 付近	2010.7.22	24 m ²	宅地造成
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
散布地	縄文・中世	土坑		土器		
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
榎原遺跡	都城市山之口町富吉2907 外	31° 46' 39" 付近	131° 8' 28" 付近	2010.7.30	24 m ²	福祉施設建設
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
散布地	近世	なし		なし		
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
高橋遺跡	都城市梅北町2488-3外	31° 40' 56" 付近	131° 4' 5" 付近	2010.8.4	4 m ²	個人住宅建設
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
散布地	縄文・中世・近世	なし		なし		
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
城ヶ尾遺跡	都城市下長飯町1849外	31° 42' 16" 付近	131° 3' 52" 付近	2010.8.10	12 m ²	集合住宅建設
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
散布地	縄文・古墳・近世	なし		なし		
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
南鷹尾町	都城市南鷹尾町1922-1外	31° 43' 11" 付近	131° 2' 36" 付近	2010.8.17	14 m ²	福祉施設建設
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
包蔵地外	なし	なし		なし		
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
上冷水遺跡	都城市安久町6126-5外	31° 41' 45" 付近	131° 4' 48" 付近	2010.10.7	12 m ²	宅地造成
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
散布地	縄文・弥生・古墳・中世	なし		なし		
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
池ノ元遺跡	都城市糸原町1870-1外	31° 44' 12" 付近	131° 1' 14" 付近	2010.11.11 ~ 11.12	20 m ²	宅地造成
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
散布地	中世	土坑・溝状遺構		土器		

都城市文化財調査報告書 第104集

都城市内遺跡 4

2011年3月

編 集 宮崎県都城市教育委員会

発 行 〒885-0034 宮崎県都城市菖蒲原町19-1

TEL(0986)23-9547 FAX(0986)23-9549

印 刷 (有)都城新生社印刷

